

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
分担研究報告書
血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者に対する肝移植を含めた
外科治療に関する診療ガイドの作成

研究分担者 原 哲也
長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 麻酔・蘇生科学 教授

研究要旨 肝移植のみならず血友病 HIV/HCV 患者への外科治療に対応するための体制を整備することを目的として、包括的な診療ガイドを作成した。術中および集中治療を含めた術後管理についての指針を示した。

共同研究者

一ノ宮大雅（長崎大学大学院麻酔集中治療医学）

A. 研究目的

肝移植および血友病 HIV/HCV 患者への外科治療に対応するための体制を整備することを目的として、包括的な診療ガイドを作成した。この診療ガイドの中で、術中および集中治療を含めた術後管理についての指針を示した。

B. 研究方法

過去の報告に加え、HIV/HCV 混合感染血友病患者に対する脳死肝移植の3例を経験し、血液製剤の活用に加え、Point-of-care を用いた血液凝固機能モニタリングの有用性を中心に診療ガイドを作成した。

C. 研究結果

【症例1】41歳の男性。血友病A（重症型）で、糖尿病と食道静脈瘤を合併し、MELD スコアは19点であった。

【症例2】61歳の男性。血友病A（重症型）で、Hassab 術後で、MELD スコアは19点であった。

【症例3】61歳の男性。血友病B（軽症型）で、慢性腎不全（血液透析）、食道静脈瘤を合併し、MELD スコアは38点で、脳死肝・腎同時移植を実施した。

D. 考察

術中管理の要点は、①肝疾患患者に対する一

般的な全身管理に加え、凝固因子の補充が重要である、②手術侵襲に応じて、目標とするトラフ因子レベルを決定し、凝固因子を投与する、③point-of-care モニタによる血液粘弾性検査の活用が望ましい、④術後の血栓性合併症に配慮する、である。

術後管理（集中治療）の要点は、①すべての臓器に配慮した管理に加え、凝固因子の補充が重要である、②手術侵襲に応じて、目標とするトラフ因子レベルを決定し、凝固因子を投与する、③感染症に対して、血液・喀痰等の培養により、適切な抗菌薬・抗真菌薬を選択する、④肝機能に応じて、鎮痛薬や鎮静薬の投与量を設定する、⑤肝腎症候群や肝肺症候群に注意する、⑥肝移植術後は血栓性合併症に対する抗凝固療法が必要となる、である。

E. 結論

HCV/HIV 重複感染血友病患者の脳死肝移植における周術期凝固線溶系の指標として point-of-care の血液粘弾性検査用い、安全な周術期管理を実施するとともに、血液製剤の使用量を削減できる可能性が示唆された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

1. 論文発表
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし